

徳田善五郎氏文書 (1) ・ (2) 概要

- 1: 文書群番号 063003
- 2: 文書群名 徳田善五郎氏文書 (1) ・ (2)
- 3: 出所 徳田善五郎氏
- 4: 家業・役職等 尼崎中在家町生魚問屋
- 5: 地名 摂津国川辺郡尼崎中在家町／兵庫県川辺郡尼崎町／内尼崎町／尼崎市中在家町／尼崎市中在家町ほか
- 6: 行政区分 尼崎藩領／兵庫県第9区／尼崎町戸長役場／尼ヶ崎町／尼崎市
- 7: 歴史
徳田家は、尼崎の有力な生魚問屋で碓屋と号した。18世紀前半には東町の同業者丸屋弥右衛門とともに、明石・淡路から堺浦までの、大阪湾で捕れた魚介の取引をしていた。魚市場が拡張移転した宝暦8年(1758)頃には、瀬戸内海全域へと取引先を拡大していることがわかる。もっとも、寛政のころ(1789～1801)から碓屋の持ち浦は次々と他の問屋の手に移るなど、碓屋の経営が衰退していることがうかがえる。
しかし、徳田家は近代以降も生魚問屋の営業を続けている。
中在家町は宮町の南の浜につくられ、生魚問屋をはじめ漁業関係の商人や漁民が多く居住した。同町には当初東部の戎の浜に、宝暦8年(1758)の移転以降は西の大浜筋四丁目に魚市場があり、近海や西国各地から魚が入荷し、尼崎だけでなく大坂・京都にまで出荷するなど、生魚取引の中心地であった。魚市場から南の海へは、碓の水尾と呼ばれる水路を利用した。
近代に入ると、鉄道開通によって京阪へ直接生魚が運搬されるようになり、尼崎の魚市場及び魚問屋は衰微していった。そのため、明治22年(1889)には、魚問屋はわずかに畑中・奥田・天野・前田・徳田の5軒を数えるのみとなった。
- 8: 伝来 昭和39年に徳田善五郎氏より寄贈。平成21年3月にボランティアにより再整理、目録の作成が完了した。
- 9: 史料入手先 徳田善五郎氏
- 10: 点数 1161点(目録件数1126件)
- 11: 年代 元禄8年(1695)～大正7年(1918)
- 12: 構造と内容
本文書群は、尼崎中在家町で生魚問屋を営んでいた徳田家(碓屋)に伝わったものである。内容は、(1) 生魚問屋である徳田家(碓屋)の生魚取引関連史料、(2) 土地の売買・貸借関連資料、(3) 家関係史料等からなる。
(1) は、船借用証文・船売買証文・借入金証文など金融関係の文書が大半を占める。借入金証文は、ほぼ取引先への仕込銀貸付証文(資金前貸に関する証文)の類である。瀬戸内海地域の各浦々へ徳田家が資金融通を行っていたことがわかる。(2) は、寛延4年(1748)以降近世期の史料も少なくはないが、大半は明治10年代(とりわけ明治14年〔1881〕前後)に集中している。別所村・中在家町・築地町など近隣で土地集積を行っていた事実がうかがえる。(3) は文久3・4年(1863・1864)に行われた家作事関連史料、改名届、頼母子など講の金融関係史料がある。
- 13: 関連史料 天野屋市兵衛家文書(1)(2)、天野屋市兵衛氏文書(1)、魚問屋奥田家文書など
- 14: 閲覧条件 原本

※本目録は『古文書・近現代目録集1』(『尼崎市史編集目録集3、8』)掲載の「徳田善五郎氏文書目録」に新たに差出(編著)・宛先・形態・点数・和暦(年月日)・西暦等の情報を追加しました。
※本目録を作成するにあたり、本文書群の再整理を行いました(作業期間:平成20年7月～21年3月)。再整理(文書整理カード採録)は、史料館のボランティアの方々にご協力いただきました。

※本目録は『古文書・近現代目録集1』（『尼崎市史編集目録集3、8』）掲載の「徳田善五郎氏文書目録」に新たに差出（編著）・宛先・形態・点数・和暦（年月日）・西暦等の情報を追加しました。
※本目録を作成するにあたり、本文書群の再整理を行いました（作業期間：平成20年7月～21年3月）。再整理（文書整理カード採録）は、史料館のボランティアの方々にご協力いただきました。